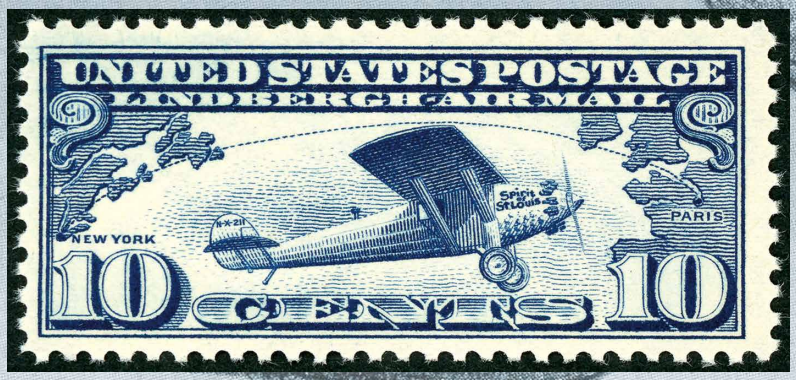
特集

JPS航空郵趣研究会が選ぶ

毎回さまざまな国やテーマにスポットを当て、好評をいただいている『ベスト50!!』特集。今回はJPS航空郵趣研究会の皆さまにご協力をいただき、『航空機切手』ベスト50!!をお届けします。カッコ良くて迫力満点の航空機切手の数々をお楽しみください。（編）　［構成・協力］JPS航空郵趣研究会



1位

大西洋横断飛行記念航空切手（アメリカ・1927年）

1927年5月20～21日、アメリカ人飛行士リンドバーグによる世界初の単独大西洋横断飛行を成功させた飛行機ライアンNYP-1「スピリット・オブ・セントルイス」号とニューヨーク～パリ間の飛行ルートを描き、同年6月18日に発行された。記録飛行を記念する切手図案のモデルと言えるデザインの切手。

※2～3㌢、特記外、切手200％拡大。

1位はリンドバーグの記録飛行を記念する切手！

2位

航空切手（アメリカ・1918年）

1918年5月15日、アメリカがワシントン～ニューヨーク間の初の定期航空路線開設に合わせ、5月13日に発行した世界初の正刷航空切手で、使用された飛行機カーチスJN-4ジェニーを美しくデザインしている。この切手にはカーチス機が逆刷りになった切手があり、切手収集家のあこがれの的となっている。［230％］

『航空機切手』ベスト50!!

3位

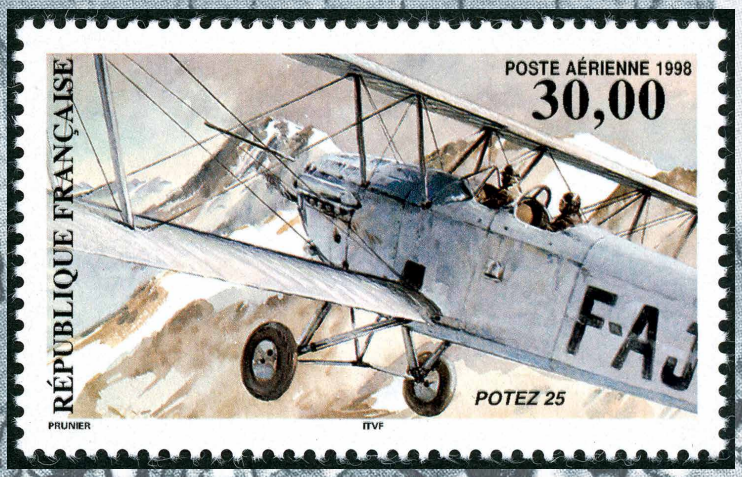
航空切手（フランス・1997年）

西アフリカの砂漠上空を飛ぶブレゲー14郵便機を美しくデザインした切手。フランスは1970年代から年１回航空切手を発行しており、この切手は1919年から始められたラテコエール社による困難な西アフリカ空路開設を図案に採用した。飛行士で作家のサン・テグジュペリはこの空路を飛び、その経験が「南方郵便機」の著作に繋がっている。［180%］

4位

芦ノ湖航空切手（日本・1929年）

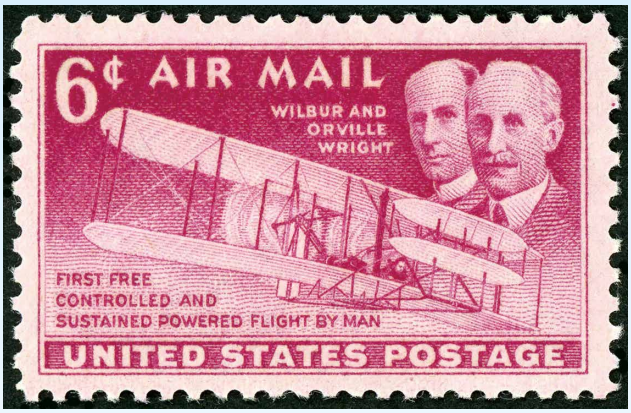
日本初の航空切手で、1929年、日本航空輸送（株）による定期航空便開設に合わせ航空郵便制度が発足したことに伴い、10月６日に発行された。図案はオランダから輸入したフォッカーF-VIIb/3m３発機が箱根芦ノ湖上空を飛行するデザイン。フォッカー３発機は日本航空輸送の主力機として1930年代後半まで活躍した。［230%］



5位

航空切手（フランス・1998年）

1929年、フランスのアエロポスタル航空は南米アルゼンチンを拠点に南米各地へ空路を開拓し、1929年７月に初めてアンデス山脈をポテーズ25A2機で越えた。このアンデス越えの空路を飛行するポテーズ25A2機を、航空切手に美しくデザインしている。［180%］



6位

ライト兄弟初飛行46周年記念航空切手（アメリカ・1949年）

1903年12月17日、世界初の動力付き飛行に成功したライト・フライヤー１号とライト兄弟を美しくデザインした切手。12月17日、ノースカロライナ州キティホークで第１回目の飛行は12秒間、距離は37m、当日の最高飛行は59秒間、距離260mと記録された。

6位にライト兄弟！

7位

20世紀シリーズ切手（アメリカ・1999年）

ボーイング747ジャンボ旅客機の機首と少女をユーモラスにほほえましく描いた素晴らしいデザインの切手。1970年、世界の航空輸送に大量輸送時代を開いた先駆者として就航したボーイング747は、広い客室に500人もの乗客を長距離輸送ができる旅客機として世界各国で就航、20世紀を代表する航空機となった。

※４～５㌢、特記外、切手200％拡大。

8位

航空切手（ドイツ・1928年）

ドイツのツェッペリン伯爵が開発した大型旅客飛行船グラーフ・ツェッペリン号（LZ-127）と地球を美しくデザインした切手。1929年、世界一周飛行では太平洋と大西洋を無着陸飛行し、豪華な客室で乗客に優雅な空の旅を提供した。1932年から1937年にかけて南アメリカへの定期便に就航、乗客と郵便を運んだ。

【会員からのアンケートでベスト20を選ぶ】

昨年、『郵趣』編集部から私ども航空郵趣研究会に「航空機切手ベスト50」の企画について話がありました。ちょうど本年は、アメリカで1918年に公式に定期航空郵便輸送を始めるにあたり、世界初の正刷航空切手（最初から航空郵便料金徴収用に印刷・発行された切手／**2位**）が発行されて100年目になるため、大変すばらしい企画で、航空郵趣の普及および発展に役立つと考え、この企画を受けることにしました。

航空機を描く切手は、航空郵便用の切手以外にも航空に関する周年記念などで、世界中で大変な数の切手が発行されています。航空機の切手を収集されている方々には好みの航空機切手があり、その中から皆さんが納得できるベスト50の切手をどのように選ぶかが大きな課題となりました。

研究会会員の好みの航空機切手や収集範囲も異なりますので、まず中心となるベスト20を選んでもらうことにし、アンケートをお願いしました。アンケートでは、描かれた航空機が航空史や航空郵便史の上で一定の評価や発行意義を持ち、デザイン面でも優れていると思われることなどを考慮して選んでもらいました。こうして複数の方々から提出されたベスト20を基にして、まずベスト50の中心となるベスト20の切手を選び、研究会の定例会に提案して意見を伺い、了承されました。

次は21～50位の切手を選ぶことにし、デザインや発行意義を考慮しながら航空機全体のバランスを考えて１機種１枚とし、次のような３つの項目でそれぞれ10枚の切手を選び、ベスト50の試案としました。３つの項目は「記録、空路開拓や旅客輸送用

9位

航空博覧会記念切手（ソ連・1937年）

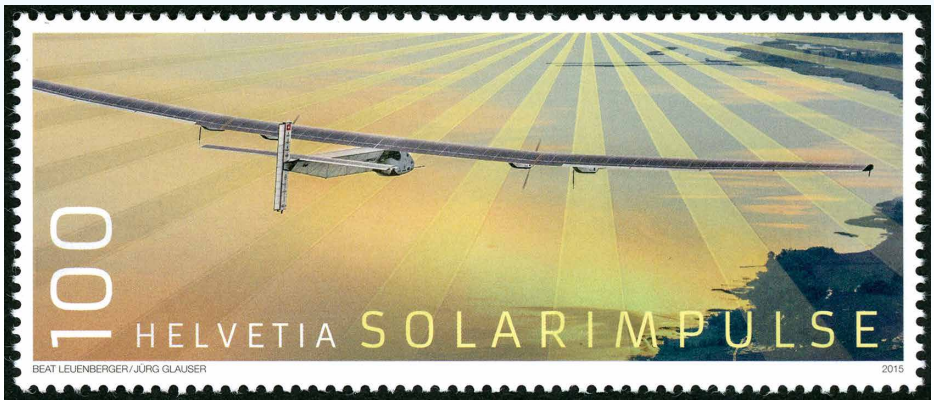
1931年８月に初飛行した当時としては超大型の輸送機ツポレフANT-14を描いた切手。40mの主翼を切手図案に描くため、横長の大型切手となっている。５つのエンジンを装備し、36人の乗客を乗せることが可能であった。故木村秀政博士が著書で魅了された切手として紹介している。[170%]

9位＆10位には横長の大型切手が登場！

10位

ソーラーインパルス世界一周記念切手（スイス・2016年）

スイスの有人ソーラープレーンプロジェクトが、太陽エネルギーだけを動力として世界一周を目指して製作したソーラーインパルス２号飛行機の世界一周成功を記念した切手。主翼が72mにもなるため、超横長の切手に巧みにデザインしている。２号機は太陽電池17,248個を積み、機体は炭素樹脂などの新素材を採用している。[150%]



航空機」(21～30位)、「人の活動を支援する航空機」(31～40位)、「軍用機」(41～50位)としました。この試案を会報『つばさ』に掲載し、会員全体の意見をいただき、最終案をまとめました。そして本年２月の研究会定例会にこの最終案「航空機切手ベスト50」を提案し、決定をみることができました。

【航空機切手の全体像と多様さの楽しみ】

航空機を描く切手は多様な形で発行されています。1908年にライト兄弟（**6位**）がフライヤー機をヨーロッパで飛行させると、各国での飛行機の製作が進みました。1912年から1913年にかけてフランス、ドイツ、イギリス、スイスなどの航空先駆者が自ら製作した飛行機で飛行大会や近隣への飛行実験を行いました。この時代の多様な飛行機は、後に古典的飛行機シリーズ切手や航空100年記念切手で描かれ、先人たちの飛行への情熱が伝えられています（**21位**）。

1912年、世界で初めて飛行機を描いた公式切手が小包切手としてアメリカで発行されました（左下）。

◀飛行機を描いた世界最初の切手（アメリカ・1912年）。小包切手として発行されたもので、郵便を運ぶ飛行機を描いている。[原寸]

コラム① ニューファンドランドの不発行航空切手

下の切手は、パン・アメリカン航空の４発飛行艇「シコルスキーS-40」と大西洋横断航路が描かれた切手で、1932年にニューファンドランドと契約している企業によって米国で製造されましたが、不発行となりました。実際の横断定期便は1939年で、1932年の時点では時期相応でなかったことが不発行の事由と考えられます。　（文・樋口　豊）

◀ニューファンドランドの不発行航空切手（1932年）。[90%]

11位

〈ヨーロッパ〉切手（西ドイツ・1988年）

ヨーロッパ各国が共同で設立した航空機製造会社・エアバス社が製作したハイテク150席級旅客機エアバスA320を描いた切手。切手図案には各国の製造分担部分を図示しており、ヨーロッパ各国が年１回発行する〈ヨーロッパ〉切手に相応しいデザインになっている。エアバスA320は1988年の就航以来ベストセラー機に。

12位

古典的航空機シリーズ切手（アメリカ・1997年）

1932年、アメリカの女性飛行家イアハートが大西洋単独横断飛行に使用した真っ赤なロッキード・ヴェガ機を描いた美しいデザインの切手。ロッキード・ヴェガはウィリー・ポストによる世界一周記録飛行など数々の記録飛行に使用された高速単葉機。

13位

航空機デザイナー記念切手（イギリス・1997年）

第２次世界大戦でイギリス本土をドイツ空軍から死守し、勝利の日まで戦い抜いたスーパーマリン・スピットファイア戦闘機を、その特徴となった美しい楕円形の主翼とともにデザインして、設計者をたたえる切手。スピットファイアは改良を重ね、２万2,000機が製造された最高の傑作戦闘機といえる。

14位

※6～7ページ、切手150％拡大。

普通切手（ニューファンドランド・1928年）

1919年６月、カナダ・ニューファンドランド島セントジョーンズから大西洋無着陸横断飛行を目指して離陸したヴィッカース・ビミー機を描く。イギリスのオールコック大尉とブラウン中尉が、このビミー機で世界初の大西洋無着陸横断飛行に成功した。大飛行の出発地の誇りが感じられるデザインである。

エアバスA320＆A380やコンコルドも登場！

切手にはフライヤー改良Ａ型が描かれました。さらに第１次世界大戦が始まり、関係国では軍用機の開発を進めました。この時代の軍用機を描く切手が戦後になって数多く発行されています（**41・42位など**）。

戦争が終わり、平和が戻った各国で航空郵便の取り扱いが始まりました。当初はとりあえず普通郵便用切手に「航空郵便」の表示と、料金が高額になるため額面の変更を加刷して発行されました。

1918年にアメリカで定期航空便の運航が始まり、それに合わせて世界最初となる正刷航空切手が郵便を運んだカーチス・ジェニー機を描いて発行されました（**2位**）。その後、各国で航空郵便制度が普及してくると、航空郵便用の切手が続々と発行されていきました。これらの切手は、航空郵便料金体系に合わせるよう必要な額面に応じて数種同じ図案で印刷、発行されました。図案は航空機を描いたものが多く発行されていますが、風景や名所、動植物なども描かれました（**4・8位など**）。

第１次世界大戦と第２次世界大戦の間の時期には民間の航空事業が発展し、旅客機が安全で確実な輸送手段として発達していきました（**25・26位**）。この時代の航空機は各国で周年記念切手やシリーズ切手として発行され、ライト兄弟のフライヤー号（**6位**）やリンドバーグのライアン「スピリット・オブ・セントルイス」号（**1位**）の周年記念切手も多数の国々で発行されました。さらに各国の航空機開発を行った技術

15位

ジェット旅客機50周年記念切手（イギリス・2002年）

1952年５月に初就航した世界で２番目のジェット旅客機デハビランド・コメットの特徴であるエンジン配置を美しくデザインした切手。成層圏を従来の旅客機より２倍近いスピードで航行し、乗客に好評であったが、おもわぬ金属疲労により事故にみまわれた。事故の徹底した調査は航空機の安全性を守る貴重な資料に。

16位

サントス・デュモン生誕100年記念切手（ブラジル・1973年）

パリに滞在したブラジル人サントス・デュモンがヨーロッパで初の飛行機14bis機を製作、次に製作したドモワゼルNo.20小型単葉機をサントス・デュモンとともにデザインした切手。翼幅5.1m、35馬力の空冷エンジンで世界初の軽飛行機である。

17位

世界一周航空路線開設記念切手（日本・1967年）

1967年３月６日、日本航空世界一周路線の開設を記念し、飛行したダグラスDC-8ジェット旅客機と飛行のルートをデザインした切手。戦前の「ニッポン」号以来となる民間機の大西洋横断飛行で、日本航空界の悲願であった。ダグラスDC-8ジェット旅客機は、ボーイング707とともに世界の空を制覇した。

18位

航空切手（フランス・2006年）

2005年に初飛行した総２階建の超大型旅客機エアバスA380を美しくデザインした切手。標準座席数525の世界最大のジェット旅客機。切手図案の機体は飛行試験機で、2005年から2007年にかけ各種の飛行試験に使用された。2007年に初就航、豪華な個室を備えるなど新しい航空旅行が可能となっている。

19位

スイス航空アメリカ線初就航記念航空切手（スイス・1947年）

1947年５月２日、スイス航空のジュネーブ～ニューヨーク間初就航を記念し、初便搭載の郵便物に使用が限定された特別な航空切手で、就航したダグラスDC-4旅客機とジュネーブとニューヨークを象徴する名所をデザインした美しい印刷の切手。

20位

コンコルド初飛行記念切手（イギリス・1969年）

1969年３月２日、超音速旅客機BAe/アエロスパシアル・コンコルドの原型001号機の初飛行を記念して、翌３月３日に発行された切手。イギリスとフランスが共同開発した旅客機で、独特の美しいデルタ翼の機体がデザインされている。フランスでも同じ日に記念切手を発行した。

者や航空路の開拓に努力したパイロットなど航空先駆者の周年記念切手も数多くみられます（**13・16位**）。

2003年にはライト兄弟の初飛行から100年を迎えて世界各国で一斉に記念切手を発行し、人類航空史の切手上での再現ともなり、航空機切手収集家を喜ばせてくれました。最近は、世界の各国でそれぞ

21位

英仏海峡横断25周年記念航空切手
（フランス・1934年）

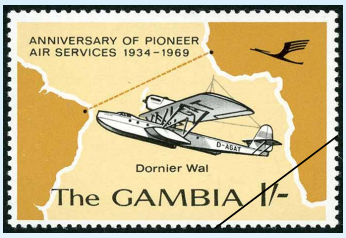
1909年、ドーバー海峡の初横断に成功したブレリオXI機を描いた切手。ブレリオXI単葉機は、アルプス横断飛行など数々の歴史的記録を残した。

22位

モンテカルロ初航空競技50周年記念切手
（モナコ・1964年）

1924年に世界初の世界一周に成功した米陸軍のダグラスDWCワールドクルーザー機と飛行ルートを描く切手。総飛行距離4万4,341ｋｍ、175日の大飛行。［90％］

23位



パイオニア航空路35周年記念切手
（ガンビア・1969年）

ドイツが1934年に開拓した南大西洋横断空路と飛行したドルニエDo-Jワール飛行艇を描く切手。南大西洋上にカタパルト装備の支援船を配置した。［90％］

記録・空路開拓・旅客輸送用航空機（21～30位）

24位

航空傷病者救済基金切手
（ラトビア・1933年）

1931年、シュナイダー・トロフィーレースで優勝したイギリスのスーパーマリンS.6B水上競速機を描き、平均速度547.3ｋｍ/ｈのスピード感を表現した切手。

25位

航空傷病者救済基金切手
（ラトビア・1933年）

1929年、ドイツが大西洋横断航空路用に開発した超大型飛行艇ドルニエDo.Xの巨大な機体を、12基のエンジンを乗せた翼幅48mの巨大な主翼を中心にデザインした切手。馬力不足で実用にならなかった。

26位

古典的航空機シリーズ切手
（アメリカ・1997年）

1936年に初就航の近代的旅客機ダグラスDC-3を描く。軍用機を含め１万機以上も作られた旅客機で、世界中で使われ戦後多くの国で航空事業開始に活躍。

27位

超音速飛行50周年記念切手
（アメリカ・1997年）

1947年12月14日、米空軍イェーガー大尉が操縦したベルXS-1（後にX-1に改称）実験機が母機から発進、高度１万3,100mでマッハ1.06の世界初の超音速飛行に成功した。切手は超音速飛行するベルX-1を描く。

28位

北極飛行記念切手
（ノルウェー・1979年）

スカンジナビア航空のダグラスDC-7Cを描く切手。1954年、世界に先駆け北極空路に定期便を開設したのがスカンジナビア航空で、ダグラスDC-7は最後のレシプロ長距離旅客機となった。

29位

航空切手（フランス・1960年）

1955年に初飛行した中・短距離ジェット旅客機の一番手となったフランスのシュドSE210カラベルを描く切手。尾部にエンジンを搭載した独創的な旅客機。

れ航空100年を迎えて最初にその国を飛んだ飛行機を描く記念切手の発行もみられます。

今日、最も身近な航空機といえばヘリコプターでしょう。近年では、地球温暖化によると考えられる自然災害が世界各地で多発しています。日本も例外ではなく、毎年のように自然災害に見舞われています。これら災害への救難活動や、人々の支援に広範囲に活動するヘリコプターの姿が切手にも多く描かれました（**33・38位**）。

【激動の20世紀から21世紀へ航空切手を楽しむ】

航空機を描く切手を収集してみると、激動の20世紀での人類の空にかける想いがみえてくるとともに歴史の動きも見られます。1960年代にはそれまでのレシプロエンジン（プロペラ機）からジェットエン

30位

エアバヌアツ10周年記念切手（バヌアツ・1997年）

南太平洋の島国バヌアツで、エアバヌアツが運航するボーイング737-300を描いた切手。737は1968年に初飛行した短距離路線で、経済性の高いベストセラー旅客機。

31位

人類飛行200年記念切手（マラウイ・1983年）

イギリスが製作した大型飛行艇ショートS23エンパイアを描く切手。大英帝国内の国々へ航空郵便料金なしで郵便を運ぶエンパイア・エアメール計画で製作され、1936年から７つの海を制覇した。

人の活動を支援する航空機（31～40位）

32位

カンタス航空世界一周記念切手（オーストラリア・1958年）

カンタス航空の世界一周路線に就航したロッキードL-1049スパーコンステレーション旅客機の美しく魅力的な機体をデザインした切手。

※８～９㌢、特記外、切手原寸。

33位

普通切手（工業と技術）（西ドイツ・1975年）

戦後、西ドイツのメッサーシュミット・ベルコウ・ブローム（MBB）社が製作したBo105Cヘリコプター（民間型）を描く切手。小型ながら大きな搭載スペースが特徴、世界で救難活動に活躍している。

34位

第33回ブルージェ航空宇宙博覧会記念切手（フランス・1985年）

フランス・ダッソー社が開発し、1984年に初飛行した大陸間商用ジェット機ダッソー・ミステール・ファルコン900をデザインした美しい切手。

ジンへ旅客機の動力が変わり、世界の国々を結ぶ旅客機のスピードが２倍に増加、移動時間の短縮で、人々の交流も飛躍的に増えます（**17位など**）。さらに1970年代に入ってジャンボ機に代表される大型旅客機の登場で、私たちも旅客機を利用しての旅の楽しみが増加しました（**7・11位など**）。

21世紀に入った今日、安全、快適な輸送手段として旅客機は、ハイテク技術の採用でさらに進化し、特に短距離旅客機の開発が進み、空の旅が身近になってきています。これらのハイテク機も鮮やかなデザインで切手に登場しています。また地球温暖化抑制を目的に、燃料効率を高めた旅客機や化石燃料を全く使わない飛行機の開発も進められており、それらの飛行機も切手に登場してくるようになりました。

以前は乗ることも難しかった旅客機が身近なものになりました。実際に乗った旅客機を描く切手を入手して旅の思い出に浸る楽しみも増えました。

小さな切手は場所も取らず、いつでも手元で見ることができます。好きな旅客機に乗った気分で世界一周を楽しむこともできるでしょう。ぜひお気に入りの航空機切手を楽しんでください。

（本文＆切手解説：鳥海真一）

コラム② 初めての気球郵便（バロン・モンテ）

1870年にプロシアとフランスの間に普仏戦争が起こり、パリはプロシアにより４ヵ月間包囲され、パリから外部への脱出や郵便輸送に気球が利用されました。この時に搭載された郵便物は「バロン・モンテ」と呼ばれ、初めて気球で運ばれた郵便として貴重な郵趣マテリアルになっています。下の切手は、航空郵便の幕開けとなった気球への郵便物積み込みの様子を描いています。（文・伊藤裕介）

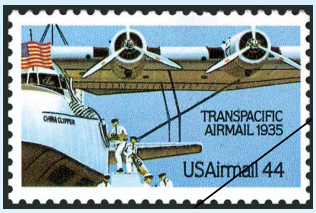
◀1870年の気球郵便（バロン・モンテ）の様子を描くフランス切手（1955年）。［90%］

35位

国内航空記念切手（ツバル・1979年）

島国ツバルの島々を結ぶ国内航空のグラマン・マッキノンG-21Cグース水陸両用飛行艇を描く切手。1937年に生産された機体を戦後ターボプロップ機に改装した。［90％］

36位



太平洋横断郵便輸送50周年記念航空切手（アメリカ・1985年）

1935年、パンアメリカン航空のマーチンM-130飛行艇が太平洋を横断し、マニラへ航空郵便の輸送を開始。航空郵便の積み込みを描いた切手。

37位

カナダ製飛行機シリーズ切手（カナダ・1979年）

森林火災などに対処したカナデアCL-215水陸両用飛行艇が消火剤を散布する様子をデザインした切手。この飛行艇は5,350ℓのタンクを装備する。

救難活動切手（カナダ・2005年）

ヘリコプターによる救命活動をデザインした切手。EHインダストリーズEH101（現在はアグスタ・ウエストランドAW101）ヘリコプターのウインチでの吊り上げ作業を描く。［90％］

38位

39位

フライングドクター記念切手（ケニア・1980年）

アフリカ・ケニアでの医療過疎地への医療活動を描く切手。描かれた機体は、パイパーPA-30Bツインコマンチ双発軽飛行機。

40位

ツェッペリンNT号記念切手（スイス・2004年）

ドイツで新技術を駆使して製造され、1997年に初飛行した準硬式飛行船ツェッペリンNT号をデザインした切手。世界各地で鉱物探査や遊覧飛行などに活躍した。

複葉機シリーズ切手（マーシャル諸島・1996年）

第1次世界大戦で有名なドイツ空軍のリヒトホーフェンが使用した真っ赤な塗装のフォッカーDr.1が描かれた切手。

41位

42位

イギリス空軍50周年記念切手（イギリス・1968年）

イギリス空軍の第1次世界大戦における主力戦闘機ソッピース・キャメルを描く切手。操縦性の良さで格闘戦に強かった。

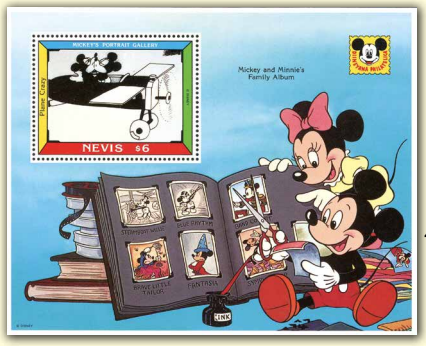
43位

ローランド卿100年記念切手（パラグアイ・1980年）

第1次世界大戦時にアメリカ陸軍航空隊が使用したフランス製のスパッドS-XIII戦闘機を描く切手。1917年からフランス軍に配備。［85％］

コラム③ ディズニーの最初期短編作品『プレーン・クレイジー』の自作飛行機

『プレーン・クレイジー』は、最初に製作されたミッキーマウスのサイレント映画です。内容はリンドバーグのニューヨーク～パリ間の単独無着陸飛行成功（1927年）に刺激を受けたミッキーが飛行機を自作してドタバタ飛行を行うというもので、アメリカの航空機文化である自作飛行機の1つの原点と言えます。しかし、当時は配給会社に見向きもされず、公開されませんでした。その後、初のサウンドトラック作品『蒸気船ウィリー』が公開された後、トーキー映画に作り直され、1929年3月17日に公開されました。この作品は、いまYouTubeで見ることができます。（文・飯野　明）



◀『プレーン・クレイジー』を描く小型シート（ネビス・1992年）。切手にミッキー自作の飛行機。［45％］

44位

第２次世界大戦50周年記念切手
（トンガ・1992年）

日本海軍の零式艦上戦闘機二一型を描いた切手。1941年12月、ハワイ真珠湾攻撃に参加した戦闘機で、大きな航続性能と軽量構造で当時世界最高の戦闘機であった。

45位

第２次世界大戦シリーズ切手
（マーシャル諸島・1994年）

ドイツを大編隊で爆撃するボーイングB-17を描いた切手。「空の要塞」とも言われ、ヨーロッパ戦線でドイツへの戦略爆撃に大量に使用された。［90％］

46位

戦闘機シリーズ切手
（グレナダ・1995年）

ドイツが第２次世界大戦で世界に先駆け戦闘に参加させたジェット戦闘機メッサーシュミットMe-262を描く切手。連合軍の攻撃に本土防空戦で奮闘した。

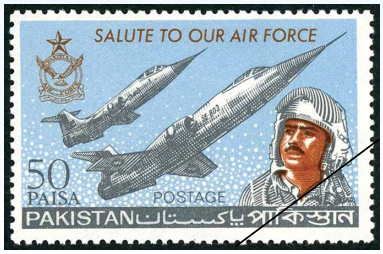
軍用機（41～50位）

※10～11㌢、特記外、切手原寸。

47位

航空切手
（キューバ・1955年）

アメリカが開発した初の超音速戦闘機コンベアF-102デルタダガーを描いた切手。1956年に部隊配備された大きな三角翼の機体、エーリアルールを採用し、超音速飛行が可能に。



パキスタン軍記念切手
（パキスタン・1965年）

アメリカ製のロッキードF-104超音速戦闘機とパキスタン軍のパイロットを描く切手。当時の世界速度記録と高度記録を達成し、1960年代を代表する戦闘機。

49位

古典的航空機シリーズ切手
（アメリカ・1997年）

革新的な戦略爆撃機ボーイングB-47ストラトジェットを描いている。1948年から大量生産され、冷戦時代を代表する大型ジェット爆撃機の原点となった機体。

50位

48位

特殊航空機シリーズ切手
（パラオ・1995年）

史上初のステルス戦闘機ロッキードF-117を描く切手。アメリカが極秘に開発し、1990年に公開された。対レーダー、赤外線探知に対応した特徴のある機体。

「JPS航空郵趣研究会」のご案内

航空郵趣を専門とするグループとして、1994年４月に「JPS航空部会」が創設され、2017年４月から公益財団法人日本郵趣協会の研究会に移行となり、「JPS航空郵趣研究会」に改名しました。

日本をはじめ世界各国の航空に関連した郵便切手類の歴史および郵便制度の研究を通じて、郵便切手文化の向上発展に寄与する活動を推進するため、当研究会では、航空切手、航空機切手、航空郵便で運ばれた郵便物などを主として、航空郵趣関連の図書や資料、航空機の情報、航空機の写真や映像などの収集、分析や交換を行い、また研究会会報や書籍などによる情報発信や共有を行うと共に、各種切手展に郵趣作品を展示するなどの普及啓発事業も展開しています。本研究会への皆様のご参加を熱望しています。

【JPS航空郵趣研究会概要】

■**会員数**：35名（2018年３月１日現在）
■**定例会**：毎月第３日曜日15：30～（８月休会）、切手の博物館３階会議室
■**研究会会報**：『つばさ』年５回発行、Ａ４判フルカラー（24ページ）
■**年会費**：男性2,000円、女性1,000円

【お問い合わせ】

〒175-0084東京都板橋区四葉1-6-1
立川賢一（代表世話人）
☎＆FAX：03-6786-1194
PCメール：ryuiki_kt@jcom.home.ne.jp

▲JPS航空郵趣研究会会報『つばさ』（年５回発行／フルカラー24㌢）。